

<今回>314回目 2022年3月25(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p391、2つの使節団 より

<前回>313回目(22-3-4)出席者 6名

資料(22-03-04-1)前回のまとめ(清水)

一2)今後の予定表(8月まで)(清水)

一3)旧唐書の証言(古田武彦著より)(榛葉)

A 報告 ウクライナの戦況が毎日のニュースになっている。世界には理不尽なことが起こっている。

B 榛葉氏より資料3)の説明を頂いた。①高宗の帝紀には蘇丁方が百済を平定したことを記して白江の戦いには何一つ記載がない。②旧唐書倭国伝には大唐が戦った倭国とは委奴国、卑弥呼の女王国、隋書の倭国伝の東西5月行、南北3月行の多利思北弧の国と連綿と続いた国であるという。倭の5王は南朝に通行していたので慎重にカットしている。③隋書に書かれた倭国と旧唐書の倭国は同じ国である。④高表仁の外交姿勢に違いがある。倭国は対等を主張し、日本国は中国の礼を守った。⑤旧唐書日本国伝の前書きの日本の名乗りのところは703年より前に知りえた疑問含みの情報を記しているのではないか。それが日本書紀に出ている。

一2)は8月から読書会の会場をもとの県民センターに戻し、時間を14時から17時までになりたい。

C 読書 泰山の招集より。

- 1) 「冊府元龜」外臣部によると、唐の高宗麟徳2年(665年)8月以降、百済にいた劉仁軌は新羅、百済、耽羅、倭人らの4国の使いと共に関東に向かった。前年高宗は天下に命令を発して麟徳3年(666年)正月を期して泰山に「封禪の儀」を挙げると告げた。封禪とは天子の行う祭りで、始皇帝や漢の武帝の先例がある。諸王は10月、刺史は12月に、事前に参集を命じられている。
- 2) 「冊府元龜」帝王部には麟徳2年(665年)10月洛陽を発った高宗に従駕した夷蛮諸国の中に倭国も加わっている。これは仁軌の率いた4か国の中の倭人とは異なっているのではないか。
- 3) これまでの通説は麟徳2年(天智4年(665年)8月から10月の倭国の使いは天智2年8月の白村江の戦いで降伏した倭人であろう(池内宏)冊府元龜の倭人たちは劉徳行を送っていった守君大石らの一行を併記したものか。と注にある。
- 4) 唐朝で倭国と呼んでいるのは九州倭国だ。麟徳3年(666年・天智5年)正月まで日本列島の代表の王者としてその終末の影をとどめていた。
- 5) 654年永徽5年の琥珀、瑪瑙の貢献者は日本国ではないかという疑問が高山氏から出された。
- 6) 朝散大夫浙州司馬上柱国劉徳行、右戎衛郎府上柱国百済彌軍、朝散大夫柱国郭務悰、凡254名、7月28日に対馬に至る。9月20に筑紫に至る。22日の表函を進る。(自尊主義)22日に表函を出して、23日近畿に立った。書紀は正確に書いている。九州か近畿かどちらの倭国が実力が上か、唐は見極めようとしている。

2022-4-8(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

4-22日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室